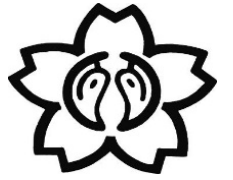


# 八多小学校だより

令和元年度  
12月号  
神戸市立八多小学校



## 今さらながら思うこと

早いものでもう12月。日は短く夜が長くなり、寒さとともに冬の訪れを感じます。若い頃は、堂々と言えませんでした。私は、夏より冬の方がよいと思っています。もちろん快適な春と秋が一番なのですが、夏より冬の方が好きです。冬は、早く暗くなるので長時間になりがちな仕事に少しばかりブレーキがかかりますし、暑くて夜中に何度も目覚めてエアコンの風を浴びなくていいし、体を動かせば温まり夏のように過剰に汗をかいてしんどくなることもありません。何よりゆったり落ち着いて過ごせる感じが好きです。

世間の人々は、冬の長い夜長、何をして過ごしているのでしょうか。自由な時間にずっとスマホをいじっているということはないでしょうか。家の中だけでなく、「歩きスマホ」という言葉もあるぐらいですから、肌身離さずという状況の方もいるかもしれません。他人と衝突したり自分がけがをしたりするので、「歩きスマホは危険」と啓発されていても、依然としてそこかしこで見ますし、歩いていなくても、駅のホームや電車の中、カフェ…。もう至る所で、スマホを眺めている人を見ます。

私は、ガラケー使用者なのでよく分からないのですが、確かに便利なのでしょうね。分からないことがあればすぐに検索できますし、見知らぬ土地でも今自分がどこにいるのかも分かりますし、いつでも家族や友達、大事な仲間とコミュニケーションが取れますし。私は、「いつでもつながっている」というのが、面倒ということもあってスマホにしないのですが、そもそも携帯電話が無くて困りません。仕事上必要だというだけです。以前、携帯を充電したまま家に置きっぱなしにしたことがあります。(度々あります。)家に帰ると、着信(メール)が1件だけありました。友達でも知り合いでもなく、自分自身が、仕事で学校のPCから保護者及び教職員に配信したラインネットのメールでした。もはやつながりのある人ゼロどころかマイナスです。

ところで、スマホでのコミュニケーションが、本当に人とつながっていることになるのでしょうか。職員室前の廊下に「社会を明るくする運動」(北区保護司会主催)の標語パネルを掲示しています。「見えますか スマホじゃなくて みんなの心」考えさせられる言葉ですね。

目の前の友達や我が子が話しかけているのに、スマホをいじっている。相手の顔を見ず、スマホの画面を見ながら会話をしている。また、家の居間やファミレスで、家族や友達といのに、各々がスマホ画面を見て過ごしている。お父さんお母さんと小学生の子供2人の家族でこの状態、大丈夫なのでしょうか。実に嘆かわしい、で終わればよいのですが、気になるのはそんな情緒的な面だけでなく、子供たちにとって、本当にスマホは要注意だという点です。これまで子供のスマホ所持・使用のデメリットについては、気にしないようにしてきたというか、言ってもどうにもならないような気がしていました。使用禁止するのは現実的ではない、安全な使い方やマナーを指導して使いこなせるように教育すべきだ(メディアリテラシー教育)、親子でルールを決めてしっかり管理して使わせるべきだ等々の考えが大勢を占めているように思えたからです。しかし、養護教諭が利用する専門誌の「スマホ依存特集」(予防医療研究所 磯村 毅さんによる)を読んだり、教頭研修で「愛着障害」についての講話を聞いたりしていると、今さらながら、やはり小中学生までの乳児・幼児・児童・生徒には、スマホは不要どころか有害なのではないかという思いを強くしました。

詳しい説明は省きますが、(興味関心がある方は調べてみてください)簡単に書けば次のようなことです。①スマホの強すぎる刺激に合わせて、脳の神経細胞が変化する。②スマホより弱い刺激では脳が満足せず、強い刺激を求め続ける脳の回路ができあがる。③学習中での「あ、そうか。」「わかった。」という刺激では脳は満足しなくなり、学力低下をまねく。④常に強い刺激が必要な状態となりスマホ依存症へと進む。⑤依存症は治癒しない。⑥は正確には、「スマホ依存症は、治癒できないが、回復はできる」ということだそうです。回復状態を維持するには、スマホ等のデジタルツールを断ち続けられないといけません。赤ちゃんが、泣いている時、抱きしめずにスマホを持たせて子守をさせると泣きやむのでしょうか、愛着形成の最も大事な時に、親子の関係づくりの絶好の機会を捨て去ってよいわけがありません。なお、有名なIT企業の幹部は、自分の子供にはデジタルツールを与えていないと言われています。

大切な子供たちを守るためには、スマホを持たせる時期をできるだけ遅らせるということではないでしょうか。

便利なツールのスマホを持たせるのは、高校生になってからでも十分だと思うのですが。ただ、八多小の子供たちの笑顔や学習時の真剣な表情、友達や先生との関係を見ていると、この危機感は杞憂に思いません。そうすると「スマホ問題は、心配ないかな。」と油断しそうですので、書かせていただきました。

もうすぐ冬休みもやってきます。長い夜長、家族との時間をどのように過ごしましょうか。

教頭 若松 和弘

## ～お願い～

八多小中学校では、放課後や休日等、図書館やミーティングルーム、体育館などを地域行事やPTA活動にご利用いただいておりますが、その際に出た飲食物(あめやガム等)のごみは、校内のごみ箱に捨てず、全てお持ち帰りくださいますようお願いいたします。また、「健康増進法」及び「兵庫県受動喫煙の防止等に関する条例」の改正により受動喫煙対策が強化されています。学校園の敷地内と敷地周辺は喫煙禁止となっておりますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。